

# 都市の回廊空間による連担性と空間特性

—新潟県高田地区における雁木空間を用いた複合住居の設計提案—

The Characteristics and Continuity of Urban Corridor

—Housing Complex Project with Gangi in Takada,Nigata—



東京電機大学大学院 未来科学研究科建築学専攻  
山本空間デザイン研究室 佐藤元樹

## 1. 序

私の故郷である新潟県高田地区は日本でも有数の豪雪地帯である。ここでは雪国の特徴を活かした住居の集住化を図った町家に付随して、生活動線を確保する為に、私有地を出し合って造られる「雁木」という連担性を持った回廊空間が広がっている。この雁木という、都市的かつ建築的な要素をもつ「都市装置」と呼ぶべき空間が、人々の多様な行動を受け止めながら都市機能と地域コミュニティを保ってきた。

しかし、高田も他の都市と同様に都市機能の郊外化と拡散化が進み、市街地空洞化が進行している。特に中心部である商店街の雁木は近年建替えられたが、他の都市と変わらないアーケード街に変貌し、ビルの高層化も伴った景観悪化や商店街の活気が失われつつある。この問題に対し、現状の都市システムを超えた新たな提案が必要だと考える。

本研究では、雁木に着目し、同様に連担性を持つ回廊が存在する諸外国の事例を参考に、その空間の特質を読み込んだ上で、雁木を用いた都市システム的设计手法を展開し、衰退する高田地区の活性化を目指した複合住居を提案することを目的とする。

## 2. 研究方法

雁木とその都市構造の分析を行い、次にポルティコ、ザ・ロウズ、パサージュについて分析を行う。分析からそれぞれが持つ空間の特質性をキーワードとして抽出したものを形態モデル化する。その中から導き出された設計手法を用いて、高田地区で雁木を用いた複合住居の提案を行う。



冬の高田地区



高田の雁木空間



約16kmの雁木が都市に広がる



Portico/ポローニャ



The Rows/チェスター



Passages/パリ



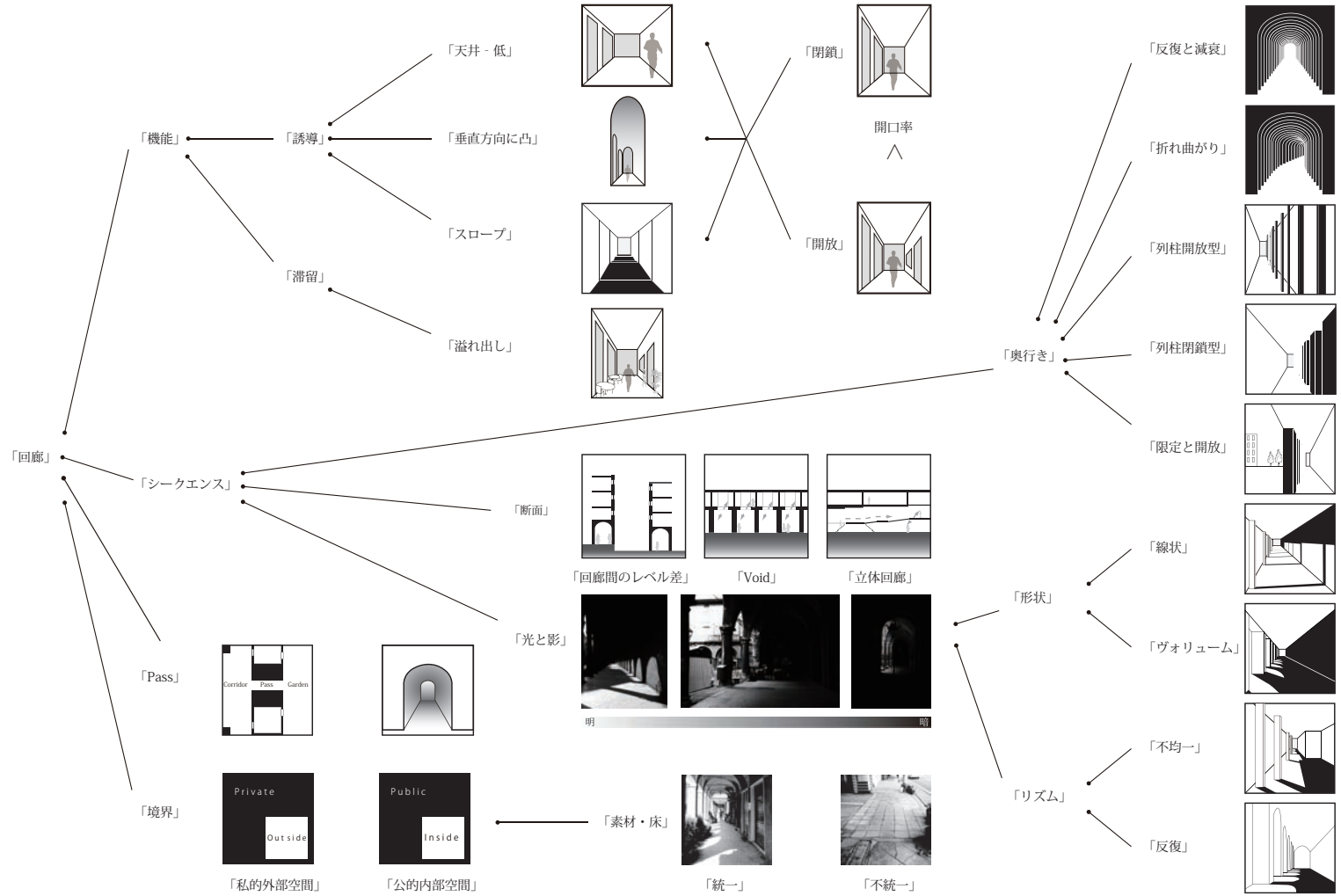
各国の都市装置



### 3. 分析 - 回廊空間の特性と相関図 -

空間特性の分析から、①「機能」、②「シークエンス」、③「回廊の Pass」、④「境界」の4つのカテゴリとそれに付随する23のキーワードを抽出した。回廊の空間特質を複合化させることで、視覚的・身体的により多様なシークエンスと動線操作を生み出す設計手法として有効であると考えられる。

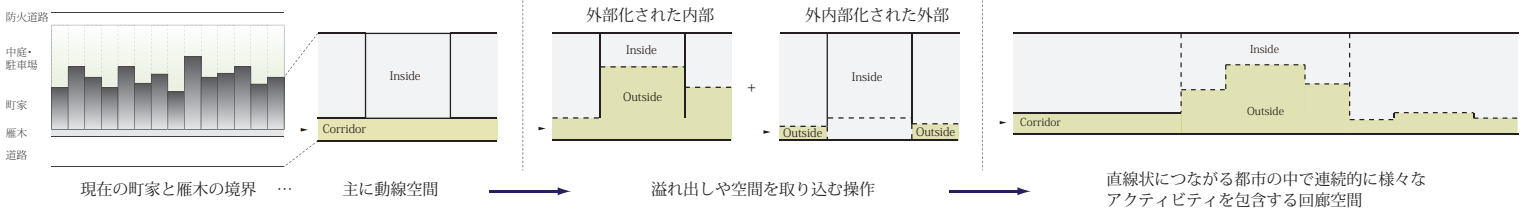
以上から、本計画では雁木のポテンシャルを踏襲しつつも、分析から得られた空間特性を有効に取り入れたハイブリットな雁木を用いて、人々の多様な行動を受け止められる回廊空間を提案する。



### 4. Project

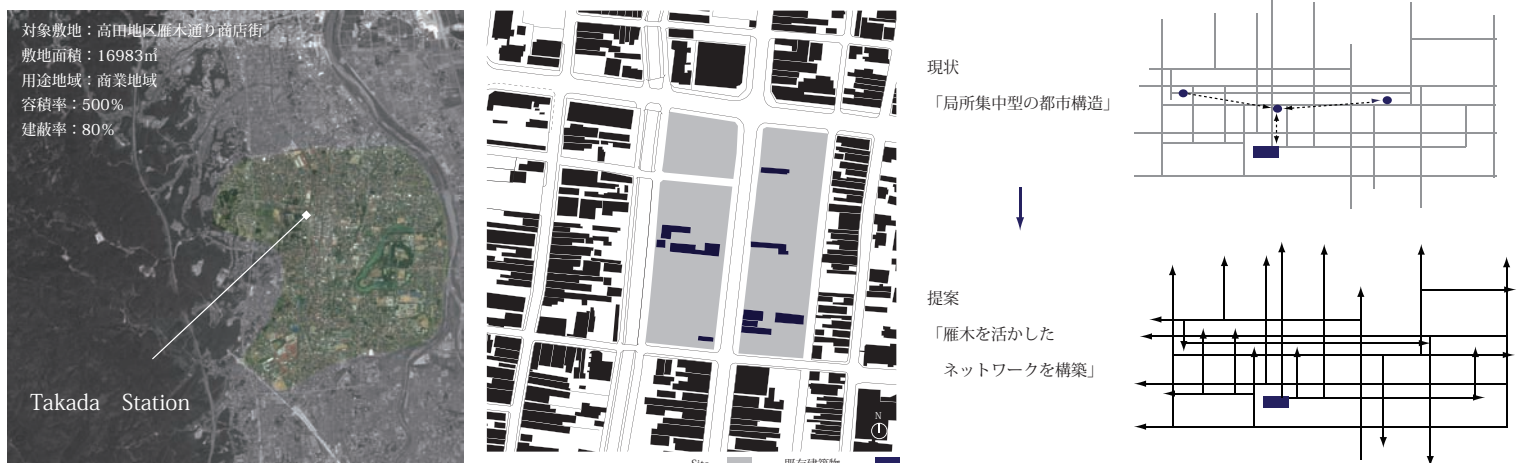
本計画では公共機能を商店街の店舗・住宅スケールに合わせて分解し、それらを回廊空間に付随させて配置することで直線状に広がる街区と雁木町屋の持つスケール感を保ちながら都市機能をコネクトする。店舗やオフィスを含んだSOHO・シェア居住を中心に、図書館、周辺学校の特別教室、工房、キッズルーム、役所分室、交流・休憩・集会の場となるサロン、情報・相談コーナー、市民ギャラリー、祭や市場の際のダイニングスペース等を含んだ複合住居を、回廊の分析モデルと高田の都市構造を融合させた手法で計画する。

#### - Concept Diagram -



#### 4-1. Site

人口約7万人の高田地区は近年、大型商業施設や公共施設の移転で都市機能の拡散化と市街地空洞化が進行している。中心部の本町商店街は衰退が著しく、現行の再開発ではそこに中高層複合核施設を計画している。しかし、局所集中型の都市構造は変わらず、本来市が推進している雁木を活かした街づくりとの矛盾も生じている。本計画では、公共機能を商店街の店舗・住宅スケールに合わせて分解し、回廊空間に付随させて配置することで、直線状に広がる街区と雁木町屋の持つスケール感を保ちながら、都市機能を接続する。

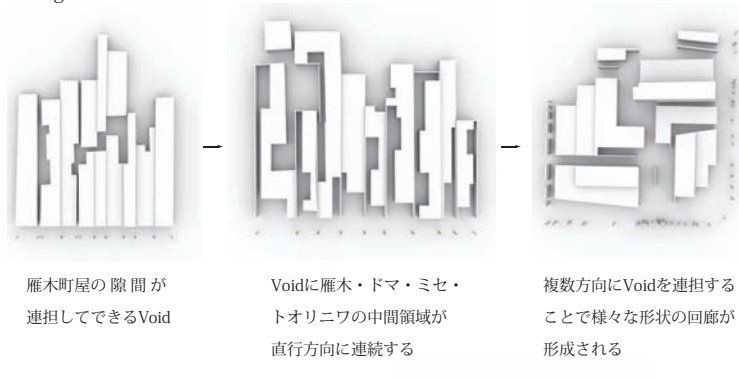


## 4-2. 設計プロセス -

### 一手法Ⅰ 雁木町屋の構造を利用した回廊空間一

長屋を雁木通りに対して直行・平行方向に配置して間口の大きさに変化を生み出す。更に長屋同士の隙間を連担することで街区の内側に様々な形態の回廊が形成される。この回廊はかつての雁木町屋の雁木・ドマ・ミセ・トオリニワの構成を引き伸ばした様な空間で、細長い回廊ではプライベートな溢れ出し、小さな広場の様な所では、祭りや市場などで地域内コミュニティを生み出すパブリックな場所となる。

#### - Diagram I -

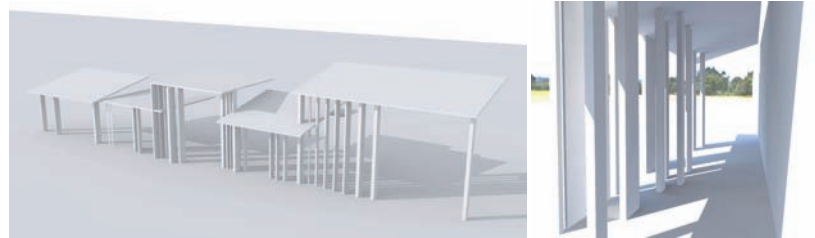


### 一手法Ⅲ 立体雁木モデル

散策路や雪下ろし、避難経路となる経路を雁木の屋根と複合することで、単線から垂直、奥行き方向へと、3D展開された回廊から様々な街の風景を臨むことができる。



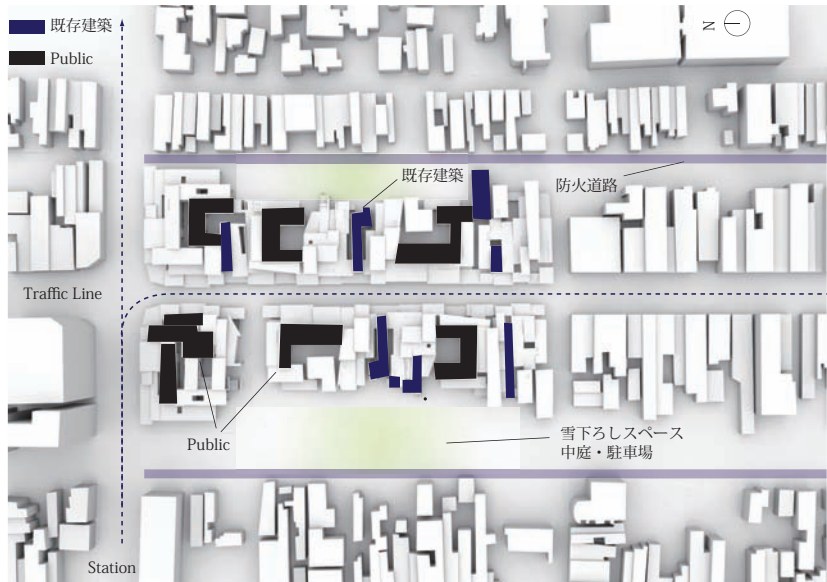
単線状で通路空間としてのみ機能



散策路や雪下ろし、避難経路、テラスなどの機能を雁木の屋根と複合化

## 4-3. ゾーニング

直線状の街区に対して既存建築物を残しながら外側には雁木通り、内側に隙間を設けて長屋の配置を行うことで、街区を自由に回遊できる回廊を形成する。雁木と内側の回廊が、多方向に伸縮して様々な場所で街区同士を接続していく。

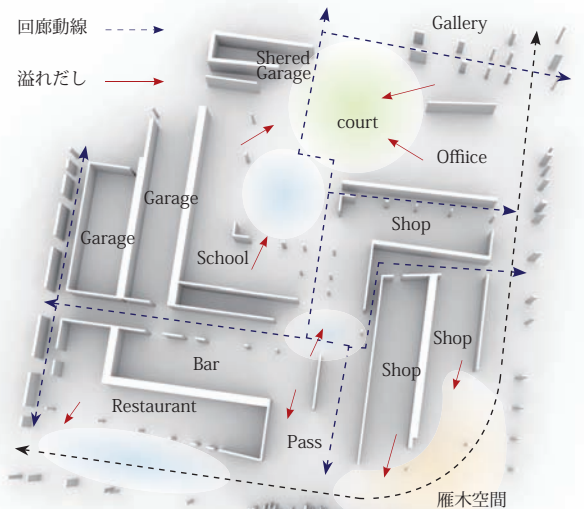


長屋と回廊のヒエラルキーが無くなり人々は街区を自由に移動する



## 4-4. 回廊の空間構成

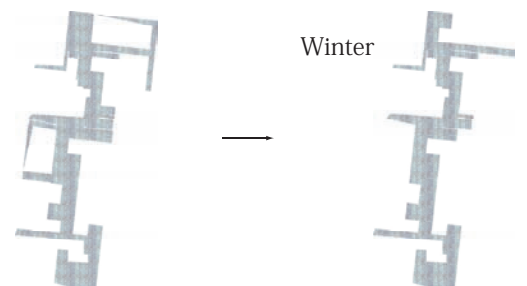
街区の外側に主要動線として列柱雁木が周り、街区内側の回廊と接続して人々を内部へと導く。雁木から回廊へはプライベート性の強い壁で覆われた閉鎖型回廊や、列柱モデルで奥行きを創り出す誘導型回廊、中庭などへアクセスする天井が高い開放型回廊などがある。また、店舗やギャラリーなどでは建物内の土間部分を通り抜ける回廊が存在し、時間帯もしくは季節によって土間空間が伸縮するため、回廊空間の構成も都市の様相によって変化する。



季節によって回廊構造が変化

Sumer

Winter







重なり合う屋根と柱



連続する立体回廊



道路を挟んでつながる回廊



様々なレベル差で生まれるコミュニティ



既存長屋と共存する立体長屋



立体連鎖する軒下空間



人々が集う雁木のルーフトラス



祭り・市場のダイニング（雪下ろし場）となる中庭



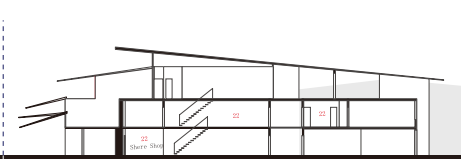
長屋のVoid＝外部的回廊



誘導的回廊



A-A' Section



B-B' Section



様々なシーケンスが連続する



開放的な回廊



内部と外部が連続する立体回廊



軒下のテラスから見下ろす



様々なアクティビティが回廊に溢れ出す



重なり合う軒下空間と住戸の領域

## 6. 総括

本計画では雁木を中心に連担性を持った回廊空間の特質について研究し、それらを用いた新しい都市システムの設計手法を展開した。街に広がる回廊全体を、都市を回遊できる都市装置として機能させることで、連続的に多様なアクティビティを誘発させる。ここでは生活する人々の日常の行為によって都市と建築の境界が襲のように変化し、都市の中の部屋と言えるような回廊空間が、都市機能をコネク特できるネットワークを創り出す建築のあり方を提示できたと考える。